

選択の先のふるさと



移住・定住

古巣のユニフォーム

「いずれまた、このユニフォームを着てプレーしたいという気持ちが僕のどこかに常にあった…」
自らのスタイルを崩さず、自分らしい野球を続け、メジャーリーグで活躍するマリナーズのイチロー選手の言葉だ。マリナーズで11年半プレーし、ヤンキース、マリナーズと6年間渡り歩き、今年3月にマリナーズへの復帰会見で話した彼の言葉には、胸にしまい続けてきた「古巣への愛情」が詰まっていた。

人生には多くの選択があり、暮らしを決めるときには就職・子育て、独立・定年退職に関わってくる人が多い。就職や転職をするために仕事場に近い住まいを決めたり、子育てしやすいまちへ移ったり、勤めていた企業から独立し新天地を求めたり。または定年退職し、のんびりと過ごす。自分と家族、10年、20年先の幸せを考えたとき「ふるさと」を選択する人が増えている。小さいころから見慣れた景色、ありのままの自分や子ども達

の成長を支えてくれる実家や昔からの友達。
8月にはお盆休みを利用して、里帰りする人も多いだろう。最近ではインターネットも発達し、地域問わずできる仕事も多くなってきた。暮らしを選択するとき何が自分に合っているのか。ふるさとへの愛を胸に、また舞鶴の地でプレーしてみてもどうだろうか。
この特集ではふるさと舞鶴に帰り、自分らしい人生を送る人たちを紹介します。

01 interview

子育て



02 interview

就職



03 interview

独立



04 interview

定年退職



ふるさとを選んだ 4人のUターン

移住・定住者の声は市勢要覧や舞鶴MY LIFE 舞鶴市移住・定住ガイドブックでも紹介中。また、- MY LIFE - 京都府舞鶴市移住・定住ポータルサイト(右コードからアクセス可)も随時更新中。移住・定住の相談はお盆の期間も実施しています。冊子の送付や移住・定住に関する問い合わせは移住・定住促進課(☎66・1085)へ。



01 interview



永野 勇樹 さん
和幸産業株式会社
整備士

“子育ては ふるさと舞鶴で”

加佐地域で生まれ育ち、府立工業高校を卒業後、京都市の専門学校へ行き、市内で二輪車の整備士として働いていました。福知山市出身の妻と結婚し、子どもも3人授かり、ふるさとで子育てをしたいと思いました。実家には兄がいるため、近くに空き家がないか市の空き家バンクに問い合わせ、宇谷地区の物件を紹介してもらいました。家の状態も良く子育て世帯のいる集落で安心というところもありUターンを決めました。現在は前職の経験を生かし、船のウインチなどの部品をつくる会社で働いています。

子育てのためにふるさとへ帰ることは子どもが生まれたときから夫婦で決めており、当時の職場にも意思は伝えていました。加佐地域だと保育園から中学校まで同じ友達とずっと一緒に過ごすことができ、転校など子どもの環境が変わらないように上の子が小学校へ入るまでにはUターンしたいと思っていました。子ども達はすぐにこの生活に慣れ、家の中、外問わずのびのびと遊んでいます。京都市内ではアパートで暮らしていたので、どうしても走りまわるだけのスペースがなく、騒ぐと近所迷惑になるため、退屈にさせてしまいストレスにもなっていたと思います。しかし、今の生活では保育園で

友達と遊び、帰ってきてからも地域を駆け回って、力いっぱい遊べていて、眠る時間もすごく早くなりました。また子育ては親も協力してくれるため、妻は「京都市内での生活だと心細く感じるが多かったけど、今は夫の親が近くにいる手伝いに来てくれてとても助かっています。私の実家の福知山からも近く、誰かが手伝ってくれたり、そばにいてくれたりして話し相手がいるとすごくほっとします」と言っています。

地域の皆さんは良い人ばかりで気さくに話しかけてくれ、ソフトボールやソフトバレーなど地域のレクリエーションにも参加して楽しんでいます。都会では隣の人もよく分からず、交通量も多かったり不審者など危険が多く不安でしたが、今の環境なら外も広く隣の人の顔もよく分かっているので安心して外で遊ばせることができます。
京都市内の友達を新居に招いて、庭でバーベキューをしても、広くてゆとりのある空間はうらやましがられます。以前よりゆとり過ぎていて家族の時間が増えたように思います。私も妻も、そして子ども達も仕事に子育て、遊びなど、Uターンして充実した毎日を送っています。



▲宇谷地区の人たちも「若い世代が入ってうれしい」と大喜び



▲和気あいあいと会話も弾む



▲広々とした室内



▲サッカーもできる広い庭